

## 校長の話

校長 上村 哲也

第一小学校のみなさん、新年あけましておめでとうございます。

2022年、令和4年、新しい年、そして3学期が始まりました。とても清々しい気分です。みなさんもいつもとは違う特別な気分にいることと思います。

さて、「朝日小学生新聞」1月1日号に「好きを極める」という特集記事が載っていました。始業式にあたり、それを基に話をしたいと思います。

今年の抱負は何ですか。思い浮かべてみてください。抱負とは、心の中に抱いている、やるぞと決めていること、やりたいと思っていることです。みなさんの今年の抱負は、好きだからやりたいことでしょうか？ それとも、苦手だから頑張りたいことでしょうか？ それから、特に抱負はない、思いつかないという人もいるでしょうね。今日は、そのうちの、「好きだからもっとやりたい」ということについて考えてみます。

新聞記事には、好きなことを極めて活躍している人から、小学生への応援メッセージがありました。極めるとは、「努力を重ねて、これ以上ないというレベルまで行きつく」という意味です。好きなことを続けていて、それが今の仕事になっている人たちからのメッセージを紹介します。

＜朝日小学生新聞 特集記事「好きを極める」より（抜粋）2022/1/1 掲載＞

○お魚博士の さかなクン

夢中になっていること。それは宝物です。さかなクンは小学生のころからずーっと、今でもお魚に夢中です。夢が広がり、人の輪も広がります。今年も夢中を大切に！！

○歌手や俳優として活躍しているイノッチこと 井ノ原快彦さん

子どものころは「やりたい！」と思ったこと、好きなことをして楽しむのが一番かな。それでいい。そんな姿を見ると、周りのぼくたちも楽しくなるよね。

○児童書作家「かいけつゾロリ」作者 原ゆたかさん

学校は好きを探しに行くところ。何事にも好奇心をもってトライしてみて。夢中になれることを見つけたらラッキー！ それに関われる仕事を探してみてください。

○ユーチューバー芸人の フワちゃん

まだ「好き」が見つからない子もあせらなくていいの。周りから受ける影響にも心を動かされてみて。みんなの「好き」が今年もたくさん増えますように。

「好きを極める」ことは、もちろん簡単なことではなく、努力の積み重ねが必要ですが、小学生の皆さんは、その入り口にいるといったところでしょうか。確かに、好きなことから取り組んでみるということはいろいろな価値があると思います。

まず、好きなことに取り組むのだから「楽しい」ですね。人は楽しさを覚えると、より一層「関心が高まり」ます。そして、もっと「難しいことに挑戦」したり、「知識を広げよう」としたりします。その中で、「自分で研究」するという姿勢が身につけていきます。当然、途中で壁に突き当たり投げ出したくなることもあるでしょうが、

好きなことに取り組むのですから、粘り強く取り組むことでしょう。負けそうになった時の「一番の原動力が好き」ということだと思います。

このように、「自分の将来を自分で切り開いていこう」という姿勢や経験は、みなさんの大きな財産となり、決して無駄になることはないと思います。「本当かな？」と思ったら、担任の先生に聞いてみてください。校長室に聞きにきてもいいですよ。私の体験談をお話しします。

それから、少し違う話ですが、好きなことに夢中になって取り組むと、その時間はいやな事や悩みから逃れられるというよさもありますね。また、「友だちは友だち、自分は自分」というように、自分に自信がもてることもあると思います。知りたくない情報も多くてストレスの多い今の世の中では、それも大切なことかもしれません。

最後に、まとめの一言です。きっと新鮮な気持ちでいる  
今日から、好きなことをたくさん見つけ、それに打ち込んでみませんか。



これで、話を終わります。



**新春を祝う**

